

【事業に関する事項】 …… 詳細は機関誌『連珠世界』各号の記事参照

平成28年度は、連珠の普及を加速させる目的で、【HPリニューアルプロジェクト】を編成し、ホームページを根本的に変更したことが大きな成果でした。真野リーダーを中心に作業いただき、「よりわかりやすく・内容が充実した」ホームページに仕上がったと思っています。ご協力いただいた多くの役員・会員の皆様に改めて御礼申し上げます。

一方で、日本連珠社『定款』には第3条事業目的で明記されている「連珠の普及に沿った国際親善」があり、事業展開の範囲に「海外」も含まれています。平成28年4月から5月にかけて、エストニア共和国タリン市で開催された「第11回チーム世界選手権」には、日本チームとして石谷信一九段、飯尾義弘八段、真野芳久五段、館雅也五段、丸田浩貴四段の5名が参加しました。

代表選考会を兼ねた珠王戦での上位者の多くが参加を辞退する中で結成されたチームであり、苦戦を予想された中で各選手が健闘したものの、9チーム中6位の成績に終わりました。力のある日本にふさわしい強力チームを常に派遣できる仕組み作りが必要と考えられます。また、チーム戦を通じて国際交流を図ることができたと思っております。

日本連珠社の【公益事業】である第54期全日本連珠名人戦は、名人・中村茂九段が挑戦者神谷俊介五段を2勝1分で下し名人位を防衛し、28期目の名人位戴冠という実に凄まじい記録を継続しました。

普及活動に力を注いでいた小林高一理事が急逝されたのは痛恨の極みですが、氏が執筆を進めていた「連珠入門」(虹有社)が発売されたのは、何より嬉しいことです。一方で、各地域で連珠公認指導員を中心として、公民館や老人施設や児童館、小学校・中学校などで連珠の普及という【公益事業展開】を積極的に継続していく予定であり、日本連珠社としても全面的にバックアップしていきたいと考えております。

以上の事項や各種の事業活動については、機関誌『連珠世界』に毎号いろいろな角度から詳報されています。

【総会に関する事項】

(1) 定時会員総会

- ・平成28年5月28日(土)13:35~14:40 於：江東区文化センター4階第1会議室
- ・出席会員数91名(うち委任状76名、会員総数118名、出席率77%)
- ・議長には河村典彦氏が選ばれ、書記に河村典彦氏、岡部寛氏、久保出美氏の3名を指名後、議事録作成者に久保出美氏を指名した。定款第21条に従い議事録署名人には議長本人の他、岡部氏・久保氏の2名を推薦し、満場一致で承認された。
- ・総会直前の第2回理事会で、河村典彦氏が新理事長となり、前理事長の三森政男氏が理事に留まり、副理事長に真野芳久氏が加わったことが報告された。小林高一氏急逝後に三森政男前理事長が兼務していた広報委員長に岡部寛氏が新就任したことも併せて報告された。
- ・議事録を全正会員(特別会員・家族正会員を含む、以下同じ)に配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2016年8月号に掲載し、平成27年度事業報告・収支決算、平成28年度事業計画・収支予算案、役員を選任、他、全議案が関係法令の賛成数に達していたので、議事詳報を割愛します。

[理事会に関する事項]

- (1) 第1回理事会（定款第38条決議の省略）平成28年5月2日(月)～同5月8日(日)
 - ・出席役員 理事13名全員「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・議事録作成者：久保理事（三森理事長指示）
 - ・議事録を全役員に配布した。主要議案が、会員総会議案「平成27年度事業報告・財務諸表等」に絞られていたため、議事詳細を割愛します。
- (2) 第2回理事会 平成28年5月28日(土)10:10～16:50（途中昼食休憩と定時会員総会開催のため、12時40分～14時50分迄中断 於：江東区文化センター4階第1会議室）
 - ・出席役員 理事12名（理事総数13名）、監事1名（監事総数2名）
 - ・議長：河村典彦理事長（第1号議決まで三森政男前理事長が議長）
 - ・書記：河村理事長・岡部理事・久保理事、議事録作成者：久保理事、議事録署名：出席理事12名、監事1名
 - ・第1号議案で、河村典彦理事を理事長に、真野芳久理事を副理事長に選任することを決定した。理事長代行順位については①飯尾義弘②田所豊齊③真野芳久とすることを決定した。
 - ・第8号議案で、岡部理事が広報委員長と決まった。また、真野副理事長がメディア委員会に加わり、「HPリニューアルプロジェクト」を編成してホームページのリニューアルを図ることになった。
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2016年8月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (3) 第3回理事会 平成28年10月29日(土)13:05～16:50 於：江東区総合区民センター7階第2会議室
 - ・出席役員 理事11名（理事総数13名）、監事1名（監事総数2名）
 - ・議長：河村典彦理事長
 - ・書記：岡部理事・久保理事・真野理事、議事録作成者：久保理事、議事録署名：出席理事11名、監事1名
 - ・第1号議案で、29年度以降の委員会活動費を見直して変更することが議決された。
 - ・議事録を全役員（理事13名・監事2名）、に後日配布し、議事決議情報を機関誌『連珠世界』2016年12月号に掲載しているため、議事詳細を割愛します。
- (4) 第4回理事会（定款第38条決議の省略）平成29年3月11日(土)～同3月20日(月)
 - ・出席役員 理事11名「同意書」提出、監事2名全員「確認書」提出
 - ・欠席理事 宮川淳三理事（死去による）、久保出美理事（体調不良による入院）
 - ・議事録作成者：河村理事長
 - ・議事録を全役員（理事12名・監事2名）に配布した。前年度とほぼ同内容の平成29年度事業計画・収支予算案他の議事決議情報を機関誌『連珠世界』2017年6月号に掲載するため、議事詳細を割愛します。

[委員会活動報告に関する事項]

- (1) 総務委員会
 - ・河村理事長指示の下、会員総会と理事会に関する資料等の作成、及び発送手配等、総務活動を遅滞なく行なった。
 - ・国及び指導官庁からの書類などの提出要請に、遅滞なく適切に回答し、HPにもメディア委員会の協力を得て公開した。
 - ・事務局は久保理事のもと、毎月の機関誌の送付者・部数管理及び珠友や一般人からの各種問い合わせに遅滞なく回答し、段位免許状作成・発送、依頼を受けた普及資料などの発送他、円滑な事務運営に努めた。
 - ・小野理事が、故・小林高一氏から連珠関連図書などを引き継ぎ、整理保管することとなった。
- (2) 普及推進委員会

公益社団法人日本連珠社 平成28年度事業報告

- ・東京の拠点として東京連珠会の活動を通じて連珠の普及活動に努めた。2017年3月で185回を数える。
 - ・全国各地で、定例会をはじめ公式戦を行うことにより、連珠の普及活動に努めた。
 - ・各地区で連珠公認指導員を中心にして支部や会員が独自に、女流棋士育成目的のペア戦、ミニ大会や対抗戦等を企画実施するなど、積極的に女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア活動を継続実施した。また、囲碁将棋サロン、ボードゲームカフェに訪問し、指導対局などを通じて宣伝を行い、知的文化の向上に寄与貢献した。
 - ・他競技の愛好家との交流を積極的に行ない、ゲームマーケットをはじめとする各種イベントへ出店し、普及推進につなげた。
 - ・東北地区をはじめ他地域との棋戦の調整を行い、関東地区の公式戦の実施を支援した。
- (3) 財務委員会
- ・河村理事長指示の下、財務委員（久保・安本）間で協議し、収支決算書及び財務諸表を継続作成した。一方、より緻密な財務管理のため、資産及び負債勘定科目を適宜増やし、平成29年度予算(案)も過去のデータ分析からさらに現実的な予算編成を行なった。また収支状況を常に把握し、遅滞なく事業活動を推進させることができた。
- (4) 広報委員会
- ・小林高一理事の死去に伴い空席となっていた委員長には、岡部寛理事が就任した。
 - ・他競技の愛好家との交流を積極的に行ない、ゲームマーケットをはじめとする各種イベントへ出店し、宣伝を行なった。
 - ・囲碁将棋サロン、ボードゲームカフェに訪問し、指導対局などを通じて宣伝を行なった。
 - ・「連珠入門（虹有社）」の刊行および宣伝に協力した。
 - ・サイバーエージェント社「FRESH!」にチャンネルを開設し、全日本選手権の生中継を行なった。
- (5) 国際委員会
- ・第11回チーム世界選手権が平成28年4月から5月にかけてエストニア共和国タリン市で開催され、日本から石谷九段、飯尾八段、真野五段、舘五段、丸田四段の5名が参加し、出場9チーム中6位の成績を収めた。
 - ・RIF会長のヘニングソン氏と連携し、次回の世界戦の開催場所や連珠の諸問題について議論し、解決を図った。
 - ・開局規定の変更に伴い、世界での四珠交替打ちのトレンドを分析して連珠世界誌に原稿を投稿した。
- (6) 機関誌編集委員会
- ・機関誌「連珠世界」の定期発行を守り、730号から741号まで遅滞なく発行した。
 - ・事務局と連携し、総会・理事会情報、連珠普及活動情報などを掲載し、公益事業目的である機関誌としての役割を果たした。
 - ・一般者から【公益事業活動】として理解してもらいやすい、女性や老人福祉施設や少年・児童たちへの連珠指導ボランティア記事をほぼ毎月掲載した。
- (7) メディア委員会
- ・活動内容の主なものとしては、公式HP上において、本部主催大会予告・結果報告(速報)、過去の名人戦記録・連珠古書関係のコンテンツ整備・更新等を中心として活動を行なった。
 - ・その他の活動としては、各委員会の要請による公式HPへの情報公示を行なった。
- (8) 珠規審議委員会
- ・『連珠／ルールブック』に明文化されていない問題提起事象の問い合わせに、その都度対応して回答した。
 - ・新しい開局規定である四珠交替打ちを、各棋戦で導入した。
 - ・機関誌「連珠世界」に、「四珠交替打ちの展望」を連載した。

公益社団法人日本連珠社
平成28年度事業報告

(9) 段位審査委員会

- ・昇入段申請を公益社団法人日本連珠社【昇入段規定】に基づき、遅滞なく審査、認定した。例外事案発生に際しては、委員会の諮問決議を理事会決議として提議した。
- ・平成28年度昇入段者数は下表の通り。公式棋戦優勝者の昇入段申請の減少傾向が続いている。
- ・直近5年度の〔段位別昇入段者数の推移〕については下表の通りとなっている。

	九段	八段	七段	六段	五段	四段	三段	二段	初段	延計
平成28年度	0	1	2	4	2	2	5	2	3	21 (0)
平成27年度	1	0	1	0	4	4	1	3	5	19 (0)
平成26年度	0	1	1	2	1	2	4	2	3	16 (0)
平成25年度	0	0	0	3	4	2	1	1	4	15 (0)
平成24年度	0	1	2	0	1	3	4	0	5	16 (0)

(10) 名人戦運営委員会

- ・第54期名人戦挑戦者決定リーグ戦を、平成28年9月に焼津市の〈西焼津セントラルホテル〉で実施した。
- ・同名位挑戦手合い5番勝負を、名人戦運営委員の協力で滞りなく実施した。インターネットでのライブ中継は好評であった。
- ・名人中村茂九段が2勝1分で、挑戦者神谷俊介五段を破り、全日本連珠名人位(第54期)を防衛した。

(11) 記録委員会

- ・国内の公式棋戦で委員会に棋譜報告のあった結果をRIF（連珠国際連盟）に報告して、国際レーティングに反映させた。
- ・東日本地区の情報収集にご協力いただいていた故・小林高一五段に代わり、丸田浩貴四段に情報収集をお願いすることになり、承諾された。

(12) 詰連珠通信戦委員会

- ・第100回、101回の通信戦大会を実施した。『連珠世界』誌上で成績を発表した。
- ・2016年に発表された全ての詰連珠関連の創作物から、第十回詰連珠大賞の選考を行った。
- ・第41回四追い作品コンクール、第37回限珠案コンクールを開催した。
- ・月例詰め連珠を始め、特別昇入段テストを実施した。

(13) 特別表彰制度

- ・平成28年度は該当者3名、磯部恭三氏（埼玉県さいたま市）、小林高一氏（故人）、丸山保司氏（静岡県浜松市）を特別表彰した。